

岐阜県の風土から読み解く

地震と災害への備え

— 先人の地震体験（歴史）から学ぶこと —

岐阜県は、内陸部で起きた最大級の地震「濃尾地震」（1891）、飛騨北部に甚大な被害をもたらした「角川（飛越）地震」（1858）など、度々大地震に見舞われてきた。これらの過去の地震について先人達が残した記録・古文書を科学的視点で読み解くことにより、今後起こるであろう地震に対する備えの一助としたい。



日時 平成26年 **12月6日（土）**
13:30～15:30

会場 **ふれあい福寿会館** 第2棟3階講堂

定員 **200名（要申込）**

申込 **放送大学 岐阜学習センター**
TEL058-273-9614 (9:00～17:30 月・祝除く)

交通案内・駐車場案内



講師



高山陣屋学芸員
飛騨地学研究会長
しもはた いつお
下畑 五夫 氏

元県立高等学校長・県博物館長など

論文/Neutral surface of a Fold and Its Bearing on Folding (共著)：万国地質学会

跡津川断層における地電流観測 (共著)：月刊 地球
飛騨の朝霧について：天気 (日本気象学会) など

著書/新ひだ風土記、ひだみの 温泉風土記

共著/日本の地学、岐阜の理科ものがたり、飛騨の大地をさぐる、写真で見える濃尾震災、アースウォッチング イン 岐阜、ひだみの 活断層を訪ねて、みの ひだ地質99選、上枝村史、丹生川村史、宮村史、国府町史 など

参加費無料

◇放送大学説明会を開催いたします◇

平成26年12月6日（土）10:30～11:30 ふれあい福寿会館 第2棟6階6B研修室（予約不要）